

手作りコンサートの意義を語る人

最後にこのほたるコンサート実行委員長である天池 豊さんにこのコンサートの意義などについて話してもらいました。

子どもたちに大勢の人の前で

発表する機会を与えてあげたい

この「ほたるコンサート」は、平成元年に当時の美濃加茂商工会青年部が始めました。3年続けて行われましたが、残念ながら4年目は開催されませんでした。せっかく続いたコンサートがここで終わってしまったというところで、地元有志で実行委員会を立ち上げました。

「ほたるコンサート」をなぜ、地元有志により再び始めたかということですが、三和町のこと、三和町の良さを市内外の人たちに知っていただきたいということのほか、児童数の少ない三和小学校の子どもたちに大勢の人前で発表する機会を与えたかったこと、またホタルの保護活動を一生懸命やっていることを、発表する機会を与えてあげたいというのが始めた理由です。

児童たちの発表は、市の天然記念物である源氏ホタルや、国の天然記



▲「ほたるコンサート」について熱く語ってくれた天池 豊さん

念物であるネギギなどを守ることを訴える内容であつて、このコンサートが子どもたちによって、自然環境を考える場として成長してきたのかも知れません。

3年ほど前から「Minkano」の冠をつけ、三和町だけのイベントではなく、市のイベントであることも意識してきましたし、13年続けてきたことで市民の皆さんにも認知されているものと思っております。

このコンサートの出演者については、ただ単に客寄せとしてアーティストを呼び込むのではなく、自然・環境を考える、また子どもたちと一緒に歌ってもらえるアーティストにお願ひしてきました。

第1回目のシンセサイザー奏者の

藤掛廣幸さんに始まり、たくさんのアーティストに来ていただいています。今年は沢田聖子さんとル・クプルさんです。

当時の商工会青年部の皆さんに

大変感謝しています

平成元年に初めてこのコンサートを行ったときも私は関わっていませんが、平成5年に再び三和町で「ほたるコンサート」を行うということになった時は、全くの素人が始めるということ、当時の商工会青年部の皆さんからコンサートに関する書類をすべて借りてきて、コンサートの実施1週間前は毎晩夜遅くまで準備していました。

今振り返って思うことは、真っ白いキャンバスに、当時の商工会青年部の皆さんがデッサンを描き、その後色を塗り始めたのが実行委員会じゃないかなと思います。

今日まで続けてこれたのは当時の商工会青年部の皆さんがあつてのことと大変感謝しています。

自分たち、三和町、

そして市の将来のために

このコンサートを始めた当時、特に1回目は野外で行ったこともあつて1,200人から1,300人が来ました。その後は体育館で行つよ

うになりましたが、地元では「ミミを落としていだけや」「なんでこんなことをしないといけないんや」とかの意見もありましたね。また、当時、若い人もこのコンサートには消極的でした。

このコンサートを続けていくうちに、若い人だけではなく、自分たちより上の年代の人たちにも（このコンサート開催の意義が）理解されてきたことで、パイプ役になってきたのではないかと思います。

今後は、「ほたるコンサート」に出演した若い年代の人と一緒に開催できるような声をかけているつもりです。

実行委員会は、この「ほたるコンサート」を開催することだけでなく、コンサートを開催する裏方を通して自然、環境、三和町の状況などいろんなことを考えたり、経験したりすることができるとは思いません。

私たちは、こつとした経験を自分たちのため、三和町、そして市の将来のために生かしていきたいと思ひます。